



本郷学園

会津美里町立本郷学園
令和7年度学校だより No.21
令和7年10月2日
発行者 校長 星 潔

令和7年度も折り返しました！

早いもので10月に入り、令和7年度も半分が過ぎました。前半戦では、子ども達の、数多くの「**本**気で **郷**GO！」な姿が見られました。入学式や運動会。中体連などの各種大会での活躍。修学旅行や学習旅行、宿泊学習などの集団宿泊活動。日々の学習に臨む姿勢。後半戦でも**ガッツ** **クリエイティブ** **エン**ジョイな姿がたくさん見られると思います。子ども達の「**本**気で **郷**GO！」な姿を生み出しているのは、保護者の皆様のいつも温かいご支援、ご協力があるからこそです。本当に感謝しております。後半戦も変わらぬご支援、ご協力を何卒よろしくお願いいたします。

学校運営協議会より！

9月11日(木)に第3回本郷学園区学校運営協議会を行いました。今回は「本郷地区クリーンキャンペーン大作戦」について、委員の皆様からご意見を頂戴しました。様々な建設的なご意見をいただくことで、よりよい活動につながっていくと思います。また、児童生徒会からの提案である「あいさつ運動」についても説明をしました。あいさつ強化週間を設定し、あいさつMVやあいさつ No.1 学級を投票により決定したり、あいさつ縦作文を保護者の皆様と共に作成したりする活動です。子ども達を中心となって決めたことについて、ご理解をいただきました。また新年度よりスタートする「本郷科」についても説明しました。(次のコラムに概要を記述いたします。)学校運営協議会を中心とした地域の皆様に支えられ、本郷学園の教育活動は進んでまいります。これからもよろしくお願いいたします。なお本日も第4回学校運営協議会を実施し、「本郷地区クリーンキャンペーン大作戦」についての最終確認を行います。



令和8年度より「本郷科」がスタートします！

本郷学園では、町教育委員会と連携しながら、令和8年度より新教科「本郷科」をスタートさせることとしました。年間25時間で計画しています。本郷科では2つの目指す児童生徒像を設定しています。

- ① 郷土の教育資源、地域人材などを活用した探究活動により、地域に愛着や誇りをもち、地域の人々や活動などに進んで関わろうとする児童生徒
- ② 主体的・協働的な学びの実現により、課題に意欲的に取り組んだり、多様性を尊重したりすることのできる児童生徒

この教科は、教育課程(学校の教育計画)の特例申請を国に提出することにより実施します。授業の総時間数を変更することなく、1、2年生は生活科、3～9年生は総合的な学習の時間を一部削減して実施します。ただし学習内容が未履修になることはありません。詳細は、後ほどお知らせするようになりますが、本郷地区を愛する心を今まで以上に育んでいきたいと思ひます。ご理解をよろしくお願ひいたします。

学力テストの結果から！

4月17日に全国学力調査を6、9年生、5月1日にふくしま学力調査を4～8年生が実施しました。個人の結果については、お子様を通じて配付したところですが、学校としての結果についてお知らせいたします。

＜全国学力・学習状況調査＞全国比

(6年生) 国語：やや下回っている 算数：下回っている 理科：やや下回っている

(9年生) 国語：全国平均並み 数学：やや上回っている 理科：やや上回っている

＜ふくしま学力調査＞福島県比

(4年生) 国語：やや下回っている 算数：やや下回っている

(5年生) 国語：やや下回っている 算数：下回っている

(6年生) 国語：やや下回っている 算数：やや下回っている

(7年生) 国語：やや上回っている 数学：上回っている

(8年生) 国語：やや下回っている 数学：上回っている

調査結果を受けて、教職員で対策を協議し、更なる学力の向上に向けて取り組んで参ります。

校長のひとりごと

世界陸上が東京で開催され、世界の強豪が国立競技場に集結しました。日本選手団もその中で健闘し、男子35km競歩の勝木選手、女子20km競歩の藤井選手が銅メダルを獲得しました。また入賞は9つありました。混合マイルリレーでは、東邦銀行の女子選手が活躍し8位入賞しました。男子3000m障害の三浦選手の8位入賞、男子110m障害の村竹選手の5位入賞、男子400mの中島選手の6位入賞など、若い力に、これからの更なる活躍への期待が膨らみました。三浦選手はゴール間近に他国選手との接触があったものの全くそこに触れることはなくインタビューを受けました。中島選手は今までの日本人選手にはない、後半の爆発的な追い上げがありました。村竹選手はインタビューでの涙が印象的でした。この悔しさを次につなげると思ひます。期待された女子やり投げの北口選手や男子100mのサニブラウン選手は、今年ケガに泣かされ、大会までの調整が順調ではなく、非常に悔しく苦しい大会になったのではないかと思ひます。次にきっとこの経験をバネにして、大爆発すると信じています。どうしても大会だと結果を求めてしまひますが、そこまでのプロセスは一人一人違ひます。我が子の大会でも、結果に一喜一憂してしまひが多かったのですが、そのプロセスを大事にした言葉かけができた時は、その後の意欲が全く違ひていたような気がしまひます。ガッツにつなげる言葉の大切さを感じました。